

# ピースツーリズム推進懇談会（第1回）

HIROSHIMA  
PEACE TOURISM

令和2年（2020年）9月29日

# 目次

1	これまでの経緯	3
2	令和2年度上半期に実施した取組について	4
3	令和2年度下半期に実施を予定している取組について	10

## 平成29年度の取組

- 平和・観光関連の有識者等と庁内関連部署の職員で構成する懇談会を設置し、懇談会会合を7回、現地調査を4回実施
- 懇談会における意見・提案をとりまとめ、2月末に市長へ報告
  - ピースツーリズムに関する提言（別紙参照）
  - 4ルート・6コースの提案など

リーフレット（日本語）



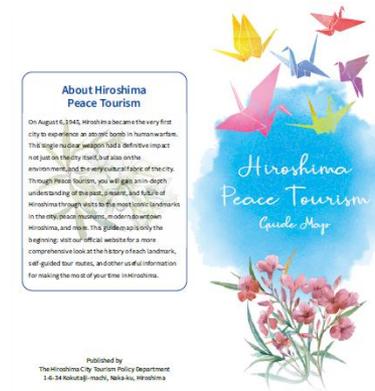
WEBサイト



## 平成30年度の取組

- プロモーションの推進
  - WEBサイトの制作・情報発信
  - リーフレット（日本語）の作成・配布
  - 説明板の新設・改修等

リーフレット（英語）



## 令和元年度の取組

- 本川小学校平和資料館休日開館の実施
- 国際シンポジウムでのピースツーリズムの紹介
- 国内ジャーナリストを対象とした研修
- ピースボランティア等への研修
- プロモーションの推進
  - リーフレット（英語）の作成
  - 広報紙への掲載



## 2 令和2年度上半期に実施した取組について

### (1) 来訪者への情報発信について

#### ① WEBサイトの運営（利用状況）

月別ユーザー数の推移（平成30年10月30日～令和2年9月27日現在）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	1,374	1,764	2,060	2,997	※ 8,728	2,102	-	-	-	-	-	-	19,025
令和元年度	1,749	1,655	1,827	4,024	4,178	2,012	1,846	2,122	1,620	1,533	1,420	1,704	25,690
平成30年度	-	-	-	-	-	-	247	1,817	1,404	1,473	1,541	1,632	8,114

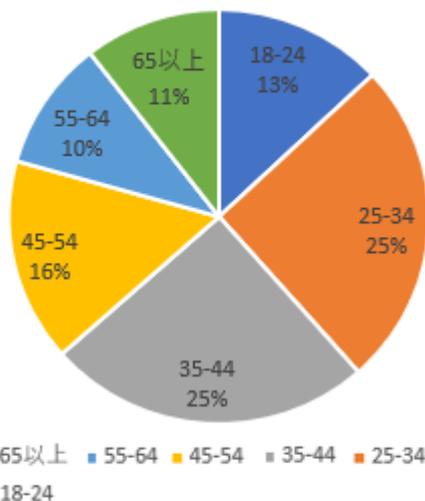
- ・日別ユーザー数 最多 1,401人 最小 17人 平均76人
- ・ページビュー数（ページ数） 177,342ページ（1人当たり3ページ）

【備考】

※ 令和2年8月5日、6日にテレビ紹介されアクセス数が急増。また、8月3日から17日までインターネット広告を掲載し、計3,470人のアクセスがあった。

利用者内訳（令和2年4月1日～令和2年9月27日現在）

年齢別（歳）



WEBサイト閲覧言語（上位10言語）

順位	言語	割合
1	日本語	88.7%
2	英語（アメリカ）	4.8%
3	英語（その他）	1.5%
4	英語（イギリス）	1.3%
5	中国語（簡体字）	0.8%
6	英語（オーストラリア）	0.3%
7	韓国語	0.2%
	イタリア語	0.2%
	中国語（繁体字）	0.2%
10	スペイン語	0.1%

WEBサイト閲覧地域（上位10ヶ国）（上位10都道府県）

順位	国	割合	順位	都道府県	割合
1	日本	91.07%	1	広島県	17.9%
2	アメリカ	2.92%	2	大阪府	17.5%
3	イギリス	0.64%	3	東京都	13.2%
4	オーストラリア	0.57%	4	神奈川県	8.8%
5	中国	0.53%	5	愛知県	3.3%
6	インド	0.45%	6	兵庫県	3.0%
7	韓国	0.27%	7	福岡県	2.9%
8	カナダ	0.25%	8	埼玉県	1.8%
9	ドイツ	0.24%	9	京都府	1.5%
10	フランス	0.17%	10	岡山県	1.2%

（データはグーグルアナリティクスを参照）

## (2) 来訪者を迎えるにあたっての環境づくりについて

### ① 平和記念公園レストハウスのリニューアルオープン（被爆75周年記念事業）

令和2年7月実施

耐震・復元工事を行っていた平和記念公園レストハウスを令和2年7月1日にリニューアルオープン



(3階 展示室)



(地下1階 展示室)

フロア	概要
3階 展示室・多目的室	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶中島地区の成り立ちと歴史、被爆前のにぎわい</li> <li>▶レストハウス建物の歴史</li> </ul>
2階 休憩・喫茶ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶喫茶軽食スペース</li> <li>▶被爆ピアノの展示</li> </ul>
1階 観光案内・特産品販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶観光案内カウンター</li> <li>▶ピースツアーなど体験プログラムの販売</li> <li>▶広島の特産品販売</li> </ul>
地下1階 展示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶被爆時に近い状態で残る地下室</li> <li>▶唯一生き残られた野村英三氏の被爆体験</li> </ul>

## ② 平和記念資料館（入館制限）のオンラインによる事前受付システムの導入

令和2年8月実施

平和記念資料館では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、入場者数の制限を行っているが、修学旅行等で訪れる学校が計画的な予定を組むことができるようオンラインによる事前受付システムを導入した。（関連P11②）

### ア 事前受付期間

9月1日以降分が対象で、見学の1年前から3日前まで

### イ 事前受付可能人数

30分当たり130人まで（事前受付分が130人に満たない場合は、残りを当日券に上乘せする。）

※現在、入場者数の制限を行っており、30分当たり150人まで入場可能

## ③ 旧中島地区被爆遺構展示整備候補箇所の仮展示（被爆75周年記念事業）

令和2年8月実施

平和記念資料館東館北側の緑地帯に新たに平屋の建屋を設ける予定で、被爆前の家屋の土間や焼け落ちた土壁などの被爆遺構の仮展示（現地見学会）を行った。

### 実施期間

令和2年8月5日～8月16日

### 来場者数

約820人

※ 被爆遺構の展示整備については、「平和記念公園における旧中島地区被爆遺構の展示整備に関する懇談会」において検討



## ④ 修学旅行等支援事業（新規）

令和2年8月実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、旅行費用の増加に苦慮している学校に対し、旅行費用の一部を補助することにより、本市での被爆の実相や平和の尊さを学ぶ機会を確保している。

- ア 対象期間 令和2年8月17日～令和3年3月31日
- イ 助成対象 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の児童・生徒  
※(広島広域都市圏内の学校は除く)
- ウ 条 件 ・ 修学旅行や平和学習などを学校行事として行われるもの  
・ 広島市で平和学習を行うもの
- エ 助 成 額 広島広域都市圏内に宿泊あり 2,000円/人 上限60万円 (300人)  
広島広域都市圏内に宿泊なし 1,000円/人 上限30万円 (300人)



※ 広島広域都市圏は、以下の計11市13町

広島県：広島市、呉市、竹原市、三原市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町、大崎上島町、世羅町

山口県：岩国市、柳井市、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町

## ⑤ 本川小学校平和資料館の平日におけるスタッフの常駐

令和2年7月、8月実施

新型コロナウイルス感染症予防対策として、本川小学校平和資料館について従来の土日祝日に加え、平日もシルバー人材センターのスタッフを配置することで、同校の児童と来訪者の接触を減らし、より安全に平和について学ぶ機会を提供した。（北側の通用門を利用）

実施期間 令和2年7月1日～8月31日

### (3) 迎える市民の積極的な関与について

#### ① 広島市立大学平和インターンシップへの参画（新規）

令和2年5月、6月実施

広島平和研究所（水本教授と河准教授）開催の学生を対象とした前期集中講義「平和インターンシップ」（「あなたの平和をPRしよう～スマホでつくる1分動画～」をコンセプトとしたワークショップ）に参画し、ピースツーリズムなどを使ったデジタル・フィールドワークを実施した。

新型コロナウイルス感染予防対策のため、全授業をオンラインで開催し、学生が「平和とは？」という問いに真摯に取り組み、学生一人ひとりが映像作品を完成させた。

「こんなに毎日、平和について考えたことはなかった」「まだ答えは出ないが、これからも考えていきたい」という声が多かった。

開催時期 令和2年5月～6月（全7回）

参加者 47名

主催 広島平和研究所

URL 広島市立大学HP <https://www.hiroshima-cu.ac.jp/news/c00021219/>

#### (広島市立大学HP抜粋)

タイトル「PEACE=FOOD」

「食べ物」と「平和」という、一見合わなさそうに思えるテーマを奇抜なアイデアで見事につないで見せた作品です。あの頃もホットケーキはあったけれども・・・時代や歴史によって、同じ「食べ物」でも全く違う「経験」となりえることが、最後の衝撃のシーンで明らかになります。ホットケーキもまた、作者の手作りです。最初と最後に2回挿入されている効果音が見る人の聴覚を刺激し、想像力をかき立てる役割をしているのも面白いです。



タイトル「空に向く」

空を見上げるという行為から、視点や立場の高低に関係なく、どの生き物でも平和を思う心は同じであろうというメッセージがとてもよく伝わります。安定したカメラワークで、さまざまな視点・角度から空に向くシーンも見事です。作者の居心地よい地声からなるナレーションに誘われ、思わず空を見上げたくなる作品です。シンプルなアイデアですが、そこに込められたメッセージは、全ての人に通じる普遍的な力を持っていると思います。



## ② 国内ジャーナリスト研修「ヒロシマ講座」でピースツーリズムを紹介（継続）

令和2年7月実施

国内の若手ジャーナリストを対象に核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた世論の醸成を図るために毎年実施している「ヒロシマ講座」において、観光政策部が本市のピースツーリズムについて講義を行うとともに、「ぴーすくる」を活用して、参加者が実際に施設を巡る体験を実施した。

参加者の感想は「実際に街を巡ることで、点ではなく、立体的に考えることができた」など概ね良好との意見であったほか、「ガイド人が同行しないと意識的に回りにくい」などの意見もあった。

開催日 令和2年7月31日

会場 広島国際会議場（講義）

見学場所 本川小学校平和資料館、相生橋、広島城の被爆樹木、袋町小学校平和資料館、旧日本銀行広島支店、白神社、平和大通り

参加者 6名



（広島城の被爆樹木：マルバヤナギ）



（本川小学校平和資料館）

#### (1) 来訪者を迎えるにあたっての環境づくりについて

##### ① 広島大学旧理学部1号館に関する企画展の開催（被爆75周年記念事業） 令和2年11月実施予定

被爆建造物である広島大学旧理学部1号館の歴史や被爆資料などに関する展示等を実施

ア 開催時期 令和2年11月上旬

イ 開催場所 旧日本銀行広島支店

- ウ 展示内容等
- ・ 被爆資料（タイルなど）、写真パネル、原爆の絵等
  - ・ 広島大学旧理学部1号館の歴史、広島大学や東千田町等に関する資料
  - ・ 広島大学原爆放射線医科学研究所所蔵の資料
  - ・ 広島大学や周辺地域等に関する被爆体験記コーナー（体験記閲覧、動画の上映）等
  - ・ 被爆体験記朗読会の開催



## ② 平和記念資料館の開館時間の延長

令和2年10月実施予定

平和記念資料館では、入場者数の制限を行っており、希望通りの時間帯に入館できない場合があることから、秋の修学旅行シーズンを迎えるに当たり、入館時間の選択の幅を広げるため、10月及び11月の2か月間の開館時間を1時間延長（関連P6②）

### ア 延長する期間

令和2年10月1日～11月30日

### イ 開館時間

午前8時30分～午後7時（最終入館時刻 午後6時30分）  
〔通常：午前8時30分～午後6時〕

### ウ 入場可能人数

1日当たり計3,000人まで（うち、開館時間延長による人数増加：300人）

※10月5日～11月30日（予定）は、入場者数の制限緩和（30分当たり150人→200人）により、1日当たり計4,000人に拡大予定



## ③ 原爆ドーム保存工事（第5回）の実施

令和2年9月から令和3年3月作業予定

史跡原爆ドーム保存技術指導委員会の助言により、補修が必要とされた箇所について保存工事を実施

### ア 主な工事内容

- ・ドーム部分の鋼材等の塗装
- ・煉瓦目地、方立（ほうだて）及び補強金物の補修

### イ 仮設足場設置

令和2年9月23日～令和3年2月下旬（予定）



## ④ 本川小学校平和資料館での被爆体験手記の展示追加

年度内設置予定

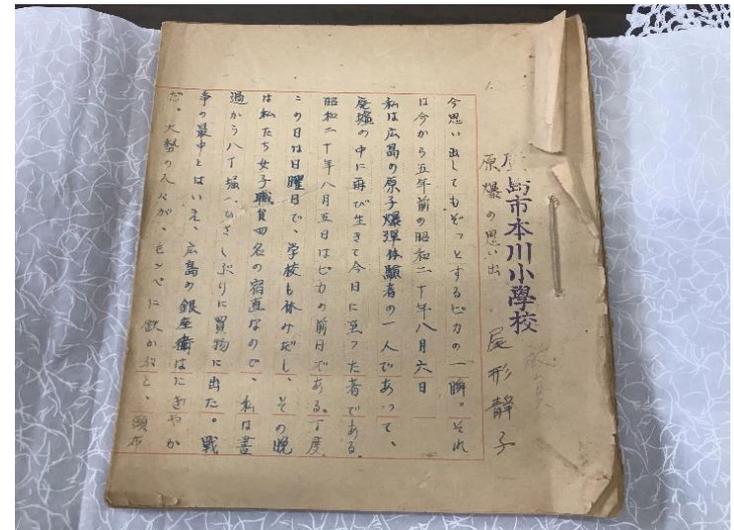
戦後に本川小学校等の教員を務めた尾形静子さんが被爆の体験をつづった手記「原爆の思い出」（レプリカ）を本川小学校平和資料館に展示

## 経緯

- ・令和2年6月、本川小学校元校長が知人から入手し、本川小学校長に託す
- ・手記の作者である尾形静子さんが広瀬国民学校（現在の広瀬小学校）で被爆されたことから、本川小学校と広瀬小学校で活用策を検討
- ・原本は平和記念資料館で保存し、両校にレプリカを配置

## 今後の活用

- ・本川小学校  
年度内に平和資料館内に展示
- ・広瀬小学校  
教員や児童の平和学習用の教材として活用



(尾形静子さんの被爆体験手記〔原本〕)

## ～尾形 静子さんについて～

昭和20年 教員として勤務中に広瀬国民学校で被爆（18歳）

昭和25年 広島市が初めて募集した「原爆体験記」へ応募（平成10年に広島市公文書館に保管されていた「原爆体験記」のオリジナル原稿全165編の未発表作品の中に、尾形静子さんの体験記が含まれていたことが分かった。）

昭和46年 逝去（44歳）

※手記「原爆の思い出」は、尾形静子さんが記した「原爆体験記」とは別の原稿で、被爆前夜のことなども含まれている。

## (2) 迎える市民の積極的な関与について

### 市民参加型の取組の検討業務の実施

年度内実施予定

#### 業務内容（案）

広島市内では、様々な団体が、来訪者を対象としたボランティアガイド活動や民間によるガイドツアーなどを行っており、ウィズコロナ／アフターコロナに向けて、ツアーのオンライン化など新しい取組を始めている団体もある。また、広島市レストハウスやカフェといった市民が集い・憩える場なども増えている。

ピースツーリズムを含めたこれらの活動を推進していくため、平和や観光に携わる関係者に対し実態調査等を実施するとともに、市民や民間事業者等が主体となり、来訪者の周遊を促す市民参画型のワークショップ等を企画し、そのあり方を検討する。

ア 広島市内において来訪者を迎える取組事例の調査（平和・観光関係の団体・個人等に対するヒアリング調査）

イ 市民参画型の具体的な取組案の検討（ピースツーリズムを参加型として推進するためのアイデアを募集するためのワークショップ等の実施）

#### ご意見を頂きたい事項：

①市民参加や民間との連携を進める、持続可能なピースツーリズムの実現には、どのような取組が必要でしょうか。

②ピースツーリズムを推進し定着させていくために、ルートやスポット情報の発信の他に、どのような仕掛けがあれば、更に来訪者の周遊を促すことができるでしょうか。